

## 図書委員の好きな本

6月13日の文化祭で、私たち図書委員はお薦めの本をPOPで紹介しました。当日ゆっくり見ることができなかったという方々、ほんの一部ではありますが、「図書日和」でゆっくりお読みください！

### 『舟を綴む』三浦しをん 著 (光文社)

玄武書房に勤める馬締光也。営業部では変人として持て余されていたが、人とは違う視点で言葉を捉える馬締は、辞書編集部を迎えられる。個性的な面々の中で馬締は辞書の世界に没頭する。言葉という絆を得て、彼らの人生が優しく編み上げられていく。しかし、問題が山積みの辞書編集部。果たして『大渡海』は完成するのだろうか？

### 『わたしの心のなか』シャロン・M・ドレイパー (鈴木出版)

ある障害を持った女の子。しゃべることも物をつかむことも難しく、歩くことも困難。そんな女の子の、心の視点から書かれた一冊。自分の意思で動くことも困難でも、そこから生まれる豊かな感性や様々な視点……。

今、何かに行き詰まっている人、いろいろな角度からいろいろな事を見てみたい人、この本が何かを教えてくれるかもしれません。

### 『どろんこ ハリー』ジーン・ジオン文 マーガレット・ブロイ・グレアム絵 (福音館書店)

やんちゃな犬のハリー。つい遊びすぎてしまったハリーを様々な困難が待ち受ける……というお話です。是非、敬愛館に来て読んでみてください。また、敬愛館にはたくさんの絵本があります。普段あまり本を読まない人も、気軽に読むことができます。

### 『美しい鉱物と宝石の事典』キンバリー・テイト 著 (創元社)

この本には、カナダにある「ロイヤル・オンタリオ博物館」に展示されている鉱物や宝石がたくさん載っています。本も厚いので読みごたえたっぷりです。是非、借りてみてはいかがでしょうか！お気に入りの鉱物や宝石が見つかるのではないのでしょうか。

(私はエメラルドが好きです。宝石つながりで、市川春子さんの「宝石の国」という漫画もオススメです！)

### 『図書館戦争』有川浩 著 (メディアワークス)

2019年。公序良俗を乱し人権を侵害する表現を取り締まる法律、「メディア良化法」が成立し30年。超法規的検閲に対抗するため、立てよ図書館！狩られ本を、明日を守れ！

本と恋の究極エンターテイメント。

### 『夏期限定トロピカルパフェ事件』米澤穂信 著 (東京創元社)

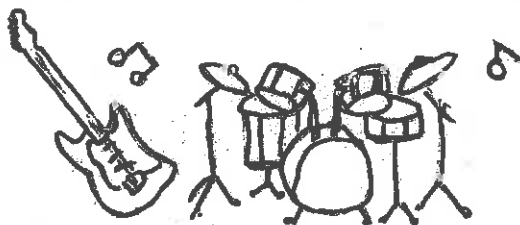
小市民たるもの、日々を平穩に過ごす生活態度を獲得せんと希求し、それを妨げる事々に対しては断固として回避の立場を取るべし。「平穩な日々より非日常が好き。」そんな高校2年生・小嶋君の、この夏の運命を左右するのは〈小佐内スイーツセレクション・夏〉！？ (読まなきゃ味わえない爽快感ですよ！)

### 『マンガで分かる微分積分』石山たいら 他 共著 (ソフトバンククリエイティブ)

私は、微分積分が好きではない人にこの本を紹介しようと思います。微分・積分は、数学のひとつの分野であり、重要なものではありますが、教科書を読んでもわかりにくい……と思っている人がいると思います。そんな人にこの本を読んでほしいです。マンガといっても絵ばかりではないので、きっと勉強にもなるはず。その一方で、教科書よりも絵や図が多いので、本を読むことよりもマンガ好きな人にもお薦めですので、是非、読んでみてください。



ぜひ読んで下さい。



### 『階段途中のビッグノイズ』越谷オサム 著 (幻冬舎)

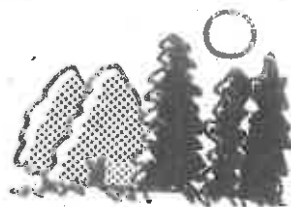
優柔不断な性格の神山啓人。2人の先輩が不祥事を起こし、所属している軽音部が廃部の危機に……。そんな時、幽霊部員であった九十九伸太郎が現れる。啓人は伸太郎に引きずられ、行動を開始するが……。

## 本の散歩道

# 『あん』 ドリアン助川 著 (ポプラ社)

物語の舞台は、小さなどら焼き屋です。毎日どら焼きを作り続ける店主・千太郎のもとに、「アルバイトの求人を見た」とやってきたのは70歳を過ぎた手の不自由な吉井徳江という女性でした。徳江の作る「あん」のおいしさに、千太郎は徳江をアルバイトとして雇うことにしました。「あん」のおいしさが評判となり、店は繁盛していきます。しかし、手の不自由な徳江の過去に対しての心ない噂から、徳江は店を去ることとなります。偏見のなかに人生を閉じ込めた徳江。生きる気力を失いかけていた千太郎。そして、中学生の客・ワカナ。三人のさりげない関わりが、読者を静かに物語の核心へと導いていきます。

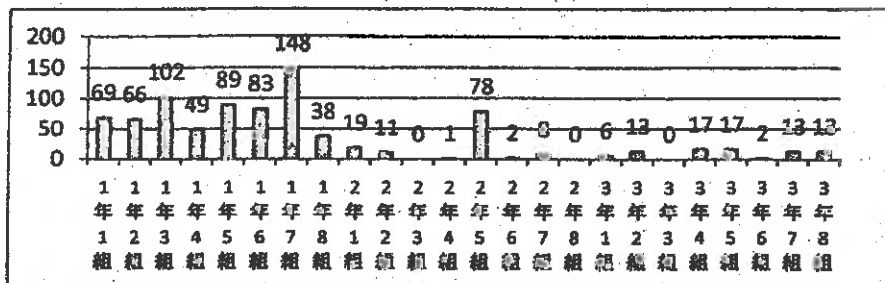
この物語は最近映画化されました。作品に登場する桜や木々が、どのような効果となっているのか気になるところです。また変えられない運命、消すことの出来ない過去、人々が抱える深い悲しみやささやかな喜びを、主演の樹木希林さんはどのように演じているのでしょうか。静かな作品だけに、読み終えた後に、じわじわと沸き上がってくるものがあります。是非、お読みください。(H27. 6, 21の南日本新聞の記事に吉井徳江のモデルとなった方が、鹿屋の星塚敬愛園の上野正子さんであると書かれていました。)



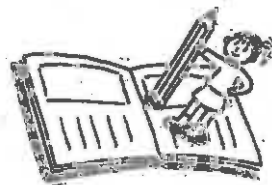
## 月別貸出統計

4月 844冊

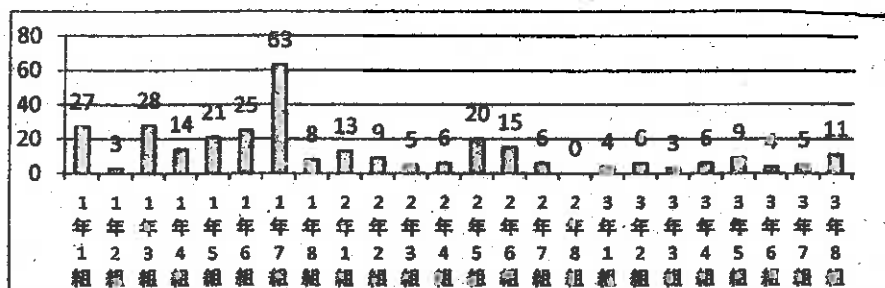
書物の新しいページを1ページ、1ページ読むごとに、私はより豊かに、より強く、より高くなっていく。  
— チェーホフの言葉



\*4月は1年生図書館オリエンテーションを実施したため、1年生の貸出が伸びました。6月はブックトークで1・2年生の貸出が伸びています。3年生の皆さんは、そろそろ小論文対策の本を読み始めてはいかがでしょうか。



5月 311冊



\*看護師を目指す人は、『看護』増田れい子 著 (岩波新書) などの看護に関する本を読みはじめてはいかがでしょうか。夏休みまでに、それぞれの目指す学部に関する本を1冊でも2冊でも読んでおきましょう。知識や情報がなければ、小論文は苦戦します。早めにスタートしましょう!

## 編集後記

昼休み、30~40名の3年生が学習室で静かに自習をしています。利用者数は毎日少しずつ増えているように思えます。昼休みに、司書室で貸出・返却をしながら、来年は自分たちがあの中にいるのか・・・と、身の引き締まる思いがします。自分の中に、丁寧にコツコツと積み上げていくことが、本当の学習なのかもしれません。読書も同じではないでしょうか。たくさん読んだからといって、成績に反映されるわけではありません。それでも本を読むのは、自分が欲しているからでしょう。登場人物となって考えたり、泣いたり、笑ったり・・・。本を読みたい!という気持ちが大切なのかもしれません。引き出しがいっぱいある人はかっこいいものです。今年かっこいい人になりたいですね!

私たち図書委員は文化祭にPOPを展示しました。図書委員の隠れた才能(?)を確認しあうことでした。今回の図書日和に紹介文だけではありますが、掲載しました。素敵なイラストを紙面の都合で掲載できないことは残念です。実物は敬愛館の掲示板に展示しますので、是非、ご覧下さい。次回からも少しずつ掲載します。お楽しみに!